

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	O175700277		
法人名	有限会社 ビバグループ		
事業所名	グループホームビバ美園 1階てんとうむし		
所在地	北海道岩見沢市美園6条6丁目5-10		
自己評価作成日	平成30年6月7日	評価結果市町村受理日	平成30年7月12日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail.2017.022_kani=true&JigyosyoCd=0175700277-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成30年6月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者さん一人ひとり尊重した暮らしが送れるように努め、和やかで家庭的な雰囲気の中で生き生きとした生活が送れるよう、それぞれの役割を大切に居心地の良い生活の場を提供しています。また地域との関わり合いの中で町内会の行事に参加したりボランティアさんとの交流を図り、人との触れ合いを大切にしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホームビバ美園」は、岩見沢インターチェンジのバス停から徒歩で数分の静かな住宅地に立地している。近隣には公園や児童館、スーパーマーケットやドラッグストアなどがあり生活の利便性が高い事業所である。花見やお祭りなどの町内会行事に積極的に参加し、散歩の機会に利用者と一緒に近隣のゴミ拾いを行うなど地域に根ざした生活を大切にしている。管理者を中心に、9名の利用者一人ひとりの思いや意向に寄り添い、それぞれの職員の知識や技術を活かして温もりのある細やかな支援を行っている。運営推進会議では、参加者の意見やアドバイスを日々のケアや運営に活かしたり、学習療法見学会を実施して普段の様子を知ってもらいながら利用者で交流する機会を設けている。3か月おきに発送している「ほこにこりぼーと」の広報紙に個別のメッセージを入れて家族に本人の状況を伝えると共に、来訪時に介護記録を提示して様子を伝えることで家族の安心感と信頼関係につながっている。火災や地震、水害などに応じた避難訓練を実施し、南空知グループホーム災害対策連絡会に加盟して災害時への対応を整備している。食事は、盛り付けや器などに配慮しながら楽しく食べられるように工夫を凝らしている。記録類を整備して些細な変化も常に情報を共有し、職員間の連携を深め質の高いケアを提供している事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階てんとうむし)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所と休憩所に理念を掲示し、スタッフがいつでも確認出来るようにしている。また、スタッフの心得を居間に掲示し、スタッフが毎日唱える事で意識の向上に努めている。	開設時のケア理念を職員と共に途中で見直しを行い、内容を理解しやすいように具体的な項目で掲示している。職員採用時に説明し、ケア会議でも取り上げて再確認している。職員は、休憩中に理念を見ながら初心に立ち返ることがある。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	災害時の避難訓練に参加して頂いたり、町内会のお花見に参加したり、秋祭りには子供みこしがホームの庭に来て頂いたり地域との繋がりを深めている。また、定期的に地域のボランティアの方々が来られ、お茶会を開いて下さっている。	散歩や買い物で近隣住民と触れ合ったり、運営推進会議に参加する地域の方々と交流している。紙パンツや手ぬぐいなどを寄付して戴いたこともある。お茶やお花のボランティアの方と長年交流を継続している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の中で、ホームの入居者さんの認知症の状況やケアの仕方等を話す事で、地域の方々に理解を得られるよう努めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の状況報告や事故・ヒヤリハット報告、災害時の避難訓練等を実施し、市町村や地域の方より意見を頂き、改善点や反省点を話し合いサービスの向上に活かしている。	年度初めに行事と共に年間テーマを伝え、開催時にハガキで出欠を確認して意見を聞き取っている。外部評価結果と目標達成計画について説明したり、学習療法見学会などを実施している。家族の意見収集に今後も取り組んでいく意向である。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加して頂いた際や書類提出の際等に市役所を訪れた時に、ホームの状況を伝えたり相談をしている。	分からないことがあれば電話で確認したり、困難事例の相談や介護保険の更新手続きなどで市役所を訪問している。運営推進会議時や普段から市役所の担当者と情報交換をして連携を深めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束等対策検討委員会を設置し、日々のケアの中で身体拘束にあたる項目がないかケア会議の中で話しあっている。	「禁止の対象となる具体的な行為」を記載したマニュアルを整備している。禁止行為11項目を含む資料を職員に配布して、年数回勉強会を実施している。全職員が「接遇・身だしなみチェック表」に毎月取り組み、言葉かけや精神的な拘束についても再認識している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎年、スタッフが順番に高齢者虐待の外部研修に参加したり、ケア会議の中でも研修を行い参加出来ない方には資料を回覧する事で虐待防止に努めている。		

グループホーム ビバ美園

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階てんとうむし)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在ホームで1名の入居者さんが成年後見制度を活用している。身寄りがない方には、今後制度を活用する必要があるかその都度検討している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には、ご本人やご家族にサービス内容を十分に説明し、疑問点や不安な点をお聞きしている。また、料金等の改定がある場合にも、その都度説明し同意を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族が毎月の利用料の支払いの際や、面会に来られた時に意見や要望をお聞きしている。また、運営推進会議の出欠のハガキにも意見を書いて頂ける欄を設けている。	面会時に本人の状況を伝えながら、意向や思いを聞き取るようにしている。家族からの意見や要望は記録方法を職員間で検討し、業務日誌に記入して分かりやすくマーカーで色付けしている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	現場に入った時やケア会議の中で意見や思いを聞いている。また、個人面談を実施し悩みや困り事を聞いて、それを反映させている。	管理者やケアマネジャーは、普段から職員の話に耳を傾けてケアや運営に活かしており、職員も個々の提案や意見が反映されていると感じている。花壇整備や勤務時間の見直しなどにも職員の意見が活かされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	現場に入り一緒に働きながら、スタッフ一人ひとりと会話をして思いや意向を把握し、職場環境の改善に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	スタッフ一人ひとりの経験や力量に応じて、外部研修への参加を促している。また、ケア会議の中で内部研修も行うことで質の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修に順番に参加している。その中で他の施設との交流や意見交換を行っている。また、管理者やケアマネジャーは、近郊のグループホームの管理者・ケアマネジャーが集まる会合に参加し、情報交換を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階てんとうむし)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前のホーム見学の時から、ご本人の思いや要望や困り事等を伺い、入居後も安心して生活出来るよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の思いやご本人の生活状況を聞き、ホームでどのような対応が出来るか話し合っている。ご本人やご家族の要望に可能な限り沿えるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前にご本人やご家族が置かれている状況を把握し、必要に応じてグループホーム以外のサービスがある事もお伝えし、その方に合ったサービスを選択して頂けるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事の後片付けや掃除等のお手伝いをお願いし、お互いが助け合いながら生活している。また、入居者さんを人生の先輩として、尊敬の念を持って接するよう心掛けている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族には、月に1回は面会をお願いしている。また、外出の支援や病院への受診も可能な限りお願いし、共にご本人を支えていけるよう努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの知人や友人の方がホームに来られたり、行きつけの美容室へ行かれる等、入居前から続いている関係性が途切れないように支援している。	宗教関係の友人が来訪して一緒に集会に参加したり、お盆にお坊さんが来訪する方がいる。職場関係の知人が訪れる利用者もいる。職員と一緒に岩見沢駅や市内のドライブを楽しんだり、家族とお墓参りに出かけることもある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者さん同士の関係性を理解し、一人ひとりが楽しく穏やかに過ごせる雰囲気作りを心掛けている。意思疎通が困難な方には、トラブルにならないよう状況に応じてスタッフが間に入り、関わり方に配慮している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階てんとうむし)		外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設への入所や入院の際には、ご本人の健康状態やホームでの過ごし方等の情報を提供し、スムーズに移行出来るよう努めている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の暮らし方や何気ない会話の中から、ご本人の思いや意向を汲み取り把握に努めている。意思表示が困難な方からは、表情や動作から汲み取れるよう努めている。	職員は普段の会話から思いや意向の把握に努めている。フェイスシートを毎年更新して本人の現状が分かるように記録している。生活歴にある趣味や嗜好内容を別項目で記載したいと考えている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や現在の生活状況を知る為、入居前にご本人やご家族から事前に情報を頂き、把握に努めている。また他のサービスを利用されている場合はその事業所から経過を伺っている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人日誌やバイタルチェック表に日々の様子や健康状態等を記入し、職員間で情報共有している。			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員が担当制で各入居者さんのモニタリングを実施し、介護計画の作成に反映させている。ご本人やご家族にも要望や意見を聞き、本人本意のプラン作成に努めている。	利用者担当職員が記録した「生活支援計画モニタリング」表を基に、全職員で検討してケアマネジャーが3か月毎に介護計画を作成している。本人の状況に合わせて介護計画を説明して、可能な場合は署名をもらうこともある。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常の中で、変化や気づきがあった場合は詳細を個人日誌や業務日誌に記入し、職員間での引き継ぎや情報の共有に活かしている。また、ケア会議の中でも意見交換を行いケアプランの見直しに役立っている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々の状況に応じて通院の支援を行っている。買い物や美容室への送迎等、その時に必要な支援に対応出来るよう努めている。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	定期的な訪問美容室や送迎付きの理容室を利用したり、年1回町内会の花見にも参加している。また、月1回地域のボランティアの方々をホームに招き、お茶会を開いて頂いている。			
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に、ご本人とご家族にかかりつけ医と今後の受診についての意向を伺い、希望がある場合はホームのかかりつけ医に変更している。月1回往診に来て頂いたり、必要時には電話で相談出来る関係性が出来ている。	協力医療機関による、内科と皮膚科の往診を全員が受診している。家族と専門医などを受診する時は健康状態を書面で担当医に伝えている。状況に応じて職員が同行することもある。受診記録は、個人日誌に分かりやすく整理している。		

グループホーム ビバ美園

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階てんとうむし)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月2回の訪問看護の際に、状況の変化やかかりつけ医による薬の変更などを伝え、アドバイスを頂いている。また、訪問看護確認表を作り情報を共有している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはご本人に関する必要な情報を医療機関に提供し、入院中はご本人の状態と今後について医師やご家族と話し合う機会を作れるようにしている。退院時には医療機関やご家族と連携を図り、安心してホームに戻って来られるような環境作りに努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に、ホームの重度化に伴う指針について説明し承諾を得ている。入居されてからも、ご本人の状態の変化に応じて、その都度ご家族やご本人と話し合い、今後の方向性について一緒に考えている。	重度化した場合の対応指針に沿って、利用開始時に説明している。体調変化に応じて主治医が状況を伝え、関係者で方針を検討している。医療行為が必要になった場合の対応は難しくなるが、家族の協力の下に看取りを行うこともある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急連絡網を作成し、全ての職員に連絡が行きわたるようになっていた。また、緊急時対応マニュアルを作成し、それに沿って初期対応を行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防組合の協力を得て、火災時の避難訓練を実施し地域の方々にも参加して頂いている。事業所の通報装置には、近郊で地域の方も登録させて頂いている。また、地震・水害時の自主避難訓練も年1回は実施している。	消防署の協力の下、運営推進会議時に昼夜の火災を想定した避難訓練を実地し、水害や地震想定での自主訓練も行っている。地震時のケア別の対応について話し合いをしているが、個別の対応について十分検討しているとはいえない。	地震時など、各利用者に応じたケア別の対応などを話し合い記録に残すよう期待したい。また、職員の救急救命訓練の受講を計画的に進めるよう期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として尊敬の念を持って接する事を心掛けている。一人ひとりの生活歴を把握し、それぞれ適切な言葉掛けを行うよう努めている。	職員はスタッフ心得を唱和し、日常のケアで実践している。毎月「接遇・みだしなみチェック表」で誇りやプライバシーを損ねないように振り返っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、スタッフが全て決めるのではなく、やりたい事や食べたい物や飲みたい物等を、自分で選んで頂く場面を作るよう心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の希望やペースに合わせた対応を心掛けている。出来る事はして頂き、事故の無いよう見守りや声掛けを行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問美容室や送迎付きの理容室を利用している。また、希望に応じてなじみの美容室へ行かれたり、それぞれの身だしなみやおしゃれを楽しんで頂いている。		

グループホーム ビバ美園

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階てんとうむし)		外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事中も四季を感じて頂けるように、季節ごとの旬の食材を取り入れて献立を作成している。また、日々の会話の中で入居者さんの希望される料理も取り入れている。	職員と一緒に盛り付けや片付けなどを行っている。誕生会は好きなメニューとケーキで祝い、暑い日には流しソーメンや焼き肉、散歩に出かけてお弁当を食べるなど食事を楽しむ工夫を重ねている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスを考え、1日の中で十品目の食材を取り入れて献立を作成している。また、十分な水分量を確保できるよう、チェック表を見ながらこまめに提供し飲んで頂いている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの状態に応じて、義歯の洗浄や義歯の預かり等、スタッフが支援し清潔保持に努めている。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄間隔を個人日誌で把握し、尿意に気づきづらい方には時間を見ながら自尊心に配慮した声掛けを行い、可能な限り失敗を減らせるよう支援している。	全員が昼も夜もトイレで排泄をしている。職員は利用者のペースで排泄動作を継続できるように、尿意がない場合も間隔を把握してさりげない声かけや誘導で自尊心を傷つけないように支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘改善の為、朝夕の1日2回の米飯に刻んだ白滝を混ぜて提供している。また、個々の排便状況をチェック表で把握しながら、下剤の調整や水分量が不足しないように提供している。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週に2回を目安に、可能な限り個々の希望に添った日時に入浴して頂いている。一人で入りたい方にはスタッフが5分おきに安否確認を行い、気兼ねなく入浴出来るよう努めている。	職員は入浴習慣や要望を把握し、身体状況から福祉用具を使って週2回の入浴を支援している。利用者が入浴剤や職員との何気ない会話を楽しみ、気分転換出来るように工夫している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの体調や生活リズムに合わせて休んだり活動を促している。夜間眠れない方には昼夜逆転しないように、日中に休み過ぎないようにパズルや塗り絵や歩行運動等の活動を促している。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の量や内容がわかる用紙を個人ファイルに綴じ、全スタッフが確認出来るようになっている。服薬の際は、誤薬や飲み間違い、飲み忘れがないよう二重・三重にチェックしている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの出来ることに注目し、日常の中で掃除や洗濯物干しやタオルたたみ等のお手伝いをお願いし、役割を持って日々過ごして頂けるよう支援している。また、その都度感謝の気持ちを伝えている。			

グループホーム ビバ美園

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階てんとうむし)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの体調や天候を見ながら散歩や買い物に出掛けている。また、ご家族さんの協力のもと、美容室や外食などに出掛けている。	近隣の公園を散歩して地域の様子や季節感を楽しんでいる。日常会話から外出希望を把握して、大型スーパーでの買い物や馴染み深い岩見沢駅周辺の見物など個別支援で対応している。体調によりテラスで外気浴が楽しめるように取り組んでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人ひとりの希望やご家族の意向に応じてお金を所持したり使ってもらえるように努めている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人からの希望に応じて、ホームからご家族さんへスタッフが電話を掛けて取り次ぎ、話す事で安心して頂いている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間や廊下には季節や行事に合わせた飾り付けをしている。室温や乾燥の状態に応じて、冷暖房や加湿器や除湿器を使用し、居心地よく過ごせるよう努めている。夏場は居室の温度が上がり過ぎないように、各部屋に温度計を設置し、それを見ながら換気を行っている。	大きな窓があるリビングは明るく、食卓テーブルやソファでゆったり過ごせる居心地の良い場所となっている。居室入口のネームプレートや3カ所のトイレに大きな表示板を付けて混乱しないように配慮している。浴室は明るく、福祉用具を利用したり介助者が動ける広さがある。廊下には季節感ある作品が飾られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間にはソファや椅子を置き、それぞれ好きな場所に自由に座って頂き、気の合った入居者さん同士が談話出来たり、1人でも過ごせるように努めている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には今までで使用していた馴染みの家具や寝具、仏壇・写真など置いて頂き、使い慣れた物の中で居心地よく過ごせるように努めている。	馴染みのタンスやテレビを置き、家族写真を飾るなど落ち着ける部屋づくりを支援している。今までの生活習慣を大事にして仏壇の世話や衣服の整理整頓が出来るように、利用者や家族と相談をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下やトイレや浴室等には段差を作らず、手すりを設け安全面に配慮している。各居室には表札を貼り、トイレの前にも『トイレ』の札を掛ける事で入居者さんが迷わないようにしている。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0175700277		
法人名	有限会社 ビバグループ		
事業所名	グループホームビバ美園 2階ひなた		
所在地	北海道岩見沢市美園6条6丁目5-10		
自己評価作成日	平成30年6月7日	評価結果市町村受理日	平成30年7月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者さん一人ひとり尊重した暮らしが送れるように努め、和やかで家庭的な雰囲気の中で生き生きとした生活が送れるよう、それぞれの役割を大切にし居心地の良い生活の場を提供しています。また地域との関わり合いの中で町内会の行事に参加したりボランティアさんとの交流を図り、人々との触れ合いを大切にしています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail.2017.022_kani=true&JigyosyoCd=0175700277-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成30年6月22日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
	○			○	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階ひなた)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所と休憩室に理念を掲示し職員が確認できるようにしている。またホーム独自の「スタッフの心得」を居間に提示し、毎日の勤務中で時間を決めて全職員が唱え、一体感の強化や意識の向上に努めている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会のイベント(お花見やお祭りの子ども神輿など)に参加し、町内会の方々にはホームで行う避難訓練や災害訓練に参加して頂いている。また定期的に地域のボランティアの方が来園され「お茶会」を開いて頂き交流を深めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で、入居者の状況報告やホームの現状、認知症についての話しを伝え、地域の人々に少しずつ理解を得るように努めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	日々の入居状況の報告、避難訓練や災害時の訓練を実施する際は困難な入居者さんへの対応を伝えるなどして、市町村の担当者や地域の方々より意見や要望を取り入れ、より良いサービスの向上に繋げている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	必要時に応じてその都度電話で状況を報告し、情報やアドバイスを頂いている。また書類を提出する際や運営推進会議時などに、ホームの状況を伝えたり相談したりしている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ケア会議の中で勉強会を行ない、身体拘束についての知識や理解を深めている。(研修会に参加できない職員に関しては、資料の配布や回覧をおこない周知している)。また日々のケアの中で、身体拘束にあたる項目がないか検討している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修に職員が交代で参加し、研修内容をケア会議などで伝え資料も回覧している。また日頃から言葉使いなどの対応が虐待にあたらないう、ケア会議などで認識する機会を設け防止に努めている。		

グループホーム ビバ美園

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階ひなた)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在1名の入居者さんが成年後見制度を活用しており、月に1度面会に来て頂いている。制度については、各職員の理解を深める事を努め、外部研修などに参加するように努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前にホームに対しての疑問点や不安がないかお聞きして、契約の際も家族やご本人に再度確認し説明している。また改定などがある場合にもその都度説明し理解を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の出欠のハガキの欄に意見など記載する欄を設けたり、面会時や毎月の利用料の支払いの際に、ホームへの意見や要望がないか伺っている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のケア会議などで、業務やケアに関する事の意見を聞き、各スタッフ同士の意見交換の場を設けている。また個人面談を実施し、悩みや困り事などを聞きそれを反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は日々の業務の中で、職員の個々の働きぶりなどを把握するとともに、一人ひとりに合わせた働き方や思いや意向を把握し職場環境の改善に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修に参加したり、ケア会議の中で各職員が担当制で勉強会を実施する事で、知識を深め個々の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修に参加する中で他施設との交流や意見交換を行う事で、質の良いサービス提供をおこなえるように努めている。また近郊のグループホームと災害時の提携を結んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階ひなた)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	見学の際や入居前のお電話などで、本人の思いや不安などを事前に要望をお聞きして、ホームに入居されても安心して生活できるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が困っている事や要望などを事前に伺い、事業所としてどのように対応できるのか話す機会を設け、ご家族と良い関係性が築けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	問い合わせの際や面談時に本人やご家族の状態を把握して、現状にあったサービスを見極めると共に、ホーム以外のサービス提供ができる事も説明し選択して頂いている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	残存能力の低下を緩やかにするように、一人ひとりの状態に合わせて掃除や食事準備のお手伝いをして頂いている。また職員は人生の先輩として尊敬の念を持って接するように努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	可能な限りの定期的受診などのご協力をお願いし協力して頂き、本人の状態を理解して一緒に本人を支えていく関係性を築けるように努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	これまでの生活習慣を継続できるように、ご家族にも協力して頂き、お墓参りや美容室など馴染みの場所への外出支援を行っている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者さん同士の関係性を日頃から把握して、トラブルにならないよう、食席や日常過ごすイスやソファの配置を配慮し良い雰囲気の中で過ごせるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階ひなた)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設への転居後も、今までの生活が変わらないように、ホームでの生活の状況等の情報交換をご家族と行っている。また必要である際は必要事項をお伝えしてサポートしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常のコミュニケーション中で、本人が希望されている思いや希望を把握するように努めたり、さりげなく伺っている。また困難な場合は表情や行動を観察して思いを汲み取れるようにしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	馴染みの物を居室に置いて頂き、以前と変わらず安心して暮らして頂けるように努めている。また入居されるまでの生活歴などを、事前にご家族などよりお聞きしたり、その方の経過や暮らしの状況などの情報を頂いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の申し送りの中で、些細な変化やいつもと違う行動や言動を伝え、全職員が一人ひとりの心身状態を把握出来るように情報交換を行って共有している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の中で本人の思いや意見を聞き、毎月行われるケア会議の中で見直したり、本人の状況に応じたケアが行われているか確認している。また各入居者さんのモニタリングを担当制にして本人の希望や変わった事などを反映し介護計画書を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	その日の出来事や言動、行動を個人日誌に記載して、職員やご家族が見ても状況がわかるようにしている。また個人ファイルやチェック表で、食事や水分量、排泄状況、健康状態を記載し職員間で情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の希望時やご家族の状況に応じて、通院や買い物、外出など必要に応じて支援するように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会のお花見などに参加させて頂いたり、定期的に近郊ボランティアの方々が来園しお茶会を開催し、交流の場を大切に楽しみを持てるような豊かな生活を支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	できる限り本人やご家族が希望する病院へご家族協力のもと受診して頂いている。またかかりつけ医の往診を月に1度受け、必要に応じて電話でも相談できるようにしている。		

グループホーム ビバ美園

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階ひなた)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月に2回訪問看護に来て頂き、その中で日常の様子を伝え変化や気になる点をその都度伝えて相談し、アドバイスや意見を頂き支援に繋げている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時に、ホームでの生活状況や服薬状況など必要な情報を医療機関に伝え、ご家族を交えて話し合いを行っている。また入院中の様子を病院から伺ったり、経過を把握出来るように努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約の際にホームでの重度化に伴う指針について、ご家族に書面で説明し同意を頂いている。また入居後も状態の変化に応じてその都度相談し、本人やご家族と話しあう場を設けて安心して生活出来るように努めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員が同じ対応が出来るように、居間に「緊急対応マニュアル」を配置して急変時に役立てている。また連絡体制もスムーズに取れるように、会社の携帯に職員の承諾を得て連絡先を登録している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回消防立ち合いの元、火災時の避難訓練を夜間時、日中時を想定して実施、その際は町内会・近郊の方も参加し協力して頂いている。また水害時や地震時を想定した自主避難訓練も年に1回ずつ実施している。		
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重し常に目上の方である意識と自尊心を傷つけないように心掛け、職員は毎月「接遇・身だしなみチェック表」を実施して意識づけを行っている。また情報交換や引き継ぎの際はイニシャルを使用しプライバシーに配慮している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員側で決めるのではなく、本人に好きな物を選んで頂いたり、本人に決めて頂く場面を作っている。また本人の希望に沿って買い物に出掛けたり、声を掛けたりしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースに合わせた生活を送って頂くように心掛けて生活を支援している。また個々のペースをより楽しんで頂くように、状況に応じて塗り絵やパズル体操、廊下を歩く運動など行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に訪問美容師や、送迎付きの理髪店を利用し本人の希望にそうように清潔保持を努めている。また季節に応じた本人の好む身だしなみができるように支援している。		

グループホーム ビバ美園

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階ひなた)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	好きな物や季節に合ったメニューを取り入れ、盛り付けの仕方も工夫し食への楽しみを提供している。また食事が苦痛にならないように、刻みやトロミをつけ支援している。できる範囲で配膳、食器拭き等お手伝いして頂いている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バランスの良い献立になるように多くの食材を取り入れ作成して個々に合った量で提供している。また水分、食事量共に個別に記録し、一人ひとりの状況を把握できるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分で行える方も声掛けや見守りを行い、一人ひとりの状態に応じて対応し、義歯の管理が難しい方は夕食後に預り、起床時に渡している。また毎食前に口腔体操を実施して嚥下の低下や肺炎の予防に努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレで排泄出来るように、排泄パターンを把握し介助が必要な方は時間を見計らって誘導を行い自尊心に配慮した対応を行っている。また排泄状況を記録して全職員が把握できるようにしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘改善の為に、朝食時のお味噌汁に食物繊維のファイバーを入れたり朝、夕食時には押し麦や繊維質の補充を行っている。また便秘気味の方には、起床時に冷水や牛乳等を提供し状況に応じて無理のない運動(歩く)を行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回～3回を目安に本人の希望を考慮し、入浴表で確認しながら行っている。また入浴前にバイタルや検温チェックを行い体調に合わせて行っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	寝つきが悪い方には日中出来るだけ起きて頂くよう、廊下を歩いて頂いたり、ぬり絵や体操活動を促し良眠出来るように支援している。また朝のバイタルチェック時に、全員の体調を把握し体調の悪い方には居室で休んで頂くようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬前に必ず日付、名前、個数を服薬の写真と照らし合わせて職員同士が声に出して確認し服薬の際も最後まで見守りを行っている。また服薬の一覧表を作成して、服用している量や用法、副作用などを理解し、変更があった場合も全スタッフが把握出来るように記載と口頭で引継ぎしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の状況に応じて、掃除や食事の準備を手伝って頂いて感謝の気持ちを伝えている。また職員も一緒にパズルや塗り絵ゲームなどして楽しんで頂いている。		

グループホーム ビバ美園

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階ひなた)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節に応じた近郊ドライブに、天気が良い時に出掛けたり、散歩をしている。またご家族さん協力のもと、定期的な外出やドライブ、お墓参りの支援をして頂いている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人とご家族さんと相談して、一人ひとりの能力に応じて金銭の所持や使用方法などを支援し、本人の希望に沿って職員と一緒に買い物に出掛けたりしている。また自己所持が難しい方は、希望をお聞きして職員側で行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙や年賀状は本人にお渡しし、希望があれば本人の記載したものをスタッフ側で投函している。電話の際は居室で気兼ねなく話して頂くように支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間の壁や廊下に季節に合わせた飾り付けを行い、生活の中で四季を感じて頂くよう努めている。また入居者さんが迷われないようにトイレの場所を案内する札を作成して掲示している。また居間には、冷房、空気清浄機、加湿器を設置して温度調整や臭いや乾燥の予防をおこなっている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間や廊下など各空間にソファや椅子を設置して、その時の気持ちにあった場所で自由に過ごして頂くようにしている。また夏季には庭にテラスを設置して、外でも過ごしやすい環境作りを行っている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのある物を持って頂く事で、今までの生活と変化がなく安心した生活が送れるように、見学时や入居時の契約の際本人やご家族にお伝えしている。また思い出の写真や小物類を置くことで、本人が落ち着いた生活が出来るように努めている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、階段、浴室、脱衣場、トイレなどに手すりを設置して、安全面の配慮を行っている。また各居室がわかるように、入居者の名前を貼って混乱をまねかないようにしている。		

目標達成計画

事業所名 グループホーム ビバ美園

作成日：平成 30年 7月 11日

市町村受理日：平成 30年 7月 12日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	災害時の個別対応マニュアルの詳細を明確にしていなかった。	新たに個別対応マニュアル表を作成し各職員に周知する。	作成するにあたっての意見交換の内容も記録に残すようにする。また個別対応の他、入浴時やトイレ介助時などのシーンを想定しての対応も作成していく。	12ヶ月
2	35	救急救命の講習会に参加する事ができなかった。	職員はできるだけ救命救急の講習会に参加できる機会を設けていく。	半分以上の職員が救命救急の講習会に参加できる機会を設けて、参加できていない職員にも周知していきけるようにする。	12ヶ月
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。